



平成会
本多 秀樹 議員

▼農業問題について

Q 島原市の野菜に関し、合併後の四年間について、生産高の多いものから五品目程度、その種類及び生産高を伺いたい。また、畜産についても酪農、養豚、養鶏それぞれについて生産高を伺いたい。

A 長崎農林水産統計年報のデータによると、十八年の野菜生産高の合計は六十六億三千万円で、本市全体の約四十四%となっている。生産高の多いものから、大根が十四億二千万円、ニンジンが十一億七千万円、白菜が七億六千万円、スイカが六億九千万円、イチゴが四億八千万円となっている。また、畜産の生産高の合計は、七十一億九千万円で全体の約四十八%であり、種類別生産高では、酪農が十一億二千万円、肉用牛が七億一千万円、養豚が二十三億九千万円、養鶏が二十八億六千万円となっている。十九年以降の数値については、調査方法が変わり種類ごとのデータはない。

Q ブランド化について、個人的に努力され、独自のブランドを確立し、出荷されている事業者もいるが、島原市として統一的

に強化、支援するような施策はあるのか。
A すばらしい農水産物のよさを、流通を通して、最終的に消費者に認めてもらうことが最初の取り組みと考える。そのため、生産者とともに商談会や物産展を積極的に展開し、しゅんの時期を逃がすことなく情報発信していくことで、島原産物のよさを認識してもらう機会を数多く創出していきたい。

Q 生産段階での品質向上と同時に、流通過程においても商品価値が高まるような努力が必要だと考えるが、農業団体も含めた協議など、取り組みがなされているのか。

A 生産過程では、県や農業団体が主体となり、作物ごとの栽培講習会の開催や、圃場ごとに土壌分析を実施し、適正な施肥を行うなどの取り組みが行われ、市としても、先進地視察の助成を行うなど、品質向上のための新たな技術習得を積極的に支援している。流通過程では、島原雲仙農業協同組合において、ショウガを一部塩漬けすることで商品価値を高め京都の漬物物店に出荷する取り組みなどが実践されている。

【その他の質問項目】

◇雇用問題について

◇公共施設の建てかえについて



新眉山クラブ
山下 博正 議員

▼商店街活性化について

Q お年寄りに優しい商店街の形成、お年寄りが買い物しやすく欲しい商品が選べ、安心して楽しめるシニア専門商店街づくりを行うことについて、どう考えているのか。

A 本市は、中心市街地の都市機能を集約し、コンパクトシティの構築を目指すため、県のまちなか活性化推進事業を活用し、商店街のアーケードなど基盤整備に対する支援を行い、快適に買い物ができる環境づくりを推進している。商店街にとって高齢者の方々は大事な顧客だと考えられるので、安心して買い物ができるよう、また利便性が高い高齢者向けのサービスの提供について、今後、商店街と研究していきたい。

Q 東京都豊島区的美鴨地藏通り商店街のあり方が、島原の商店街の活性化のヒントの一つになると思うがどうか。

A お年寄りの原宿とも言われる巣鴨地藏通り商店街では、年間約八百万人の方々が訪れていると聞いている。

本市においても、観光客などを呼び込み、商業の振興を図ることは大切な取り組みだ

と考えている。昨年度、商店街周辺の観光施設と湧水スポットを周遊できるコースを表示した観光マップ「島原観彩五光絵巻」を作成し、このほか、国の緊急雇用創出事業を活用して「まちなかの小さな美術館」もアーケード内に三店舗オープンしている。また、予算計上している「まちなか癒しの雑木林創出事業」により、商店街を訪れる方がくつろぎ、四季の移り変わりを感じつつ行き交うことができる小径を創出したい。このような事業の実施で、地域の皆様と一緒に、多くの市民や観光客が訪れたい魅力的な商店街づくりに取り組んでいきたい。

Q 閉鎖中の映画館の再活用、アーケード道路への移動交番、行政相談所の設置等はどうのように考えているのか。

A 昨年、県の事業を活用し、商店街が旧映画館をイベントホール「ビジーホール」として整備を行っており、これに併設して、子育てに関する相談、交流する場の提供を行う「まちなか子育てサポートプラザ」を現在準備している。移動交番や行政相談所の設置についても、今後研究していきたい。

【その他の質問項目】

◇島原のふるさとづくり

◇新エネルギー構想について